

鳥類

1	ドバト	被害甚大種
2	クロエリセイタカシギ	被害危惧種
3	アヒル(ナキアヒル)	被害危惧種
4	ソウシチョウ	被害危惧種
5	コブハクチョウ	準被害危惧種
6	コリンウズラ	要注目種
7	メジロ(大陸亜種)	要注目種
8	コジュケイ	情報不足種
9	ベニスズメ	情報不足種
10	ハッカチョウ	情報不足種

分類群	鳥類
1. 京都府内の外来生物の特徴	<p>京都府の鳥類相としては、外来種はあまり情報がなかった。野鳥観察者は外来種を記録に残さないことも多かった。例えば「京都の野鳥」(1979)にある京都府の鳥類目録では京都府の鳥類262種が掲載されているが外来種は掲載されていなかった。近畿地区版鳥類レッドデータブック(2002)では、外来種(移入種と記述)はレッドデータブックの対象としていないが、在来種への影響という点から注意を払う必要があるとの理由でこの時点の近畿地区の情報をまとめている。</p> <p>それによると近畿地区で確認された外来種は32種で、京都府では14種が掲載されていた。14種のうち8種(コブハクチョウ、コジュケイ、ドバト、セキセイインコ、ベニスズメ、テンニンチョウ、キンランチョウ、ハッカチョウ)は繁殖を確認、または繁殖の可能性が高く、残りの6種(ホンセイインコ、コウカンチョウ、キンパラ、ヘキチョウ、ブンチョウ、オウゴンチョウ)は生息を確認と記載した。</p> <p>鳥類はペットとして多くの種が籠脱けとして観察される。その中で外来種(移入種)と判断されるのは、基本的には京都府または周辺府県、または国内で繁殖している種であるが、判断は微妙な場合を含む。</p> <p>京都府レッドデータブック(2015)の自然環境目録・鳥類では358種が掲載され、在来種は344種、外来種は同じく14種が掲載された。</p> <p>『Birds of Kyoto 京都府鳥類目録2016』は、これまで府内で確認されたことがある355種(外来種を除く)の野鳥を掲載し、外来種19種を掲載している(コクチョウ、ソウシチョウ、コリンウズラ、アヒル、ギンパラ、セイタカシギが追加)が確認された。上記14種には抜けている1種(キンパラ)を加えると京都府内で20種の外来種が確認された。上述したように籠脱けかどうかの判定は観察例数が少ないと微妙であり、今後も観察記録の蓄積をもとに外来鳥類相の把握が必要である。</p>
2. 基準選定の考え方	<p>京都府外来種データブックに扱われる外来種は、現実に府内の分布情報がない、あるいはほとんどない種も含む。それは外来種データブックが、外来種対策の必要性を普及啓発する視点を持ち、外来種導入をおこしかねない人の行為を判り易く示す種も含めるからである。</p> <p>京都府レッドデータブック鳥類では、掲載種の希少性の判定を、個体数や分布の規模およびここ数十年間の減少の有無の二つの視点で行った。外来種データブックでは、2007年版京都府外来種データブックで採用したように、府内の確認状況を確認種(定着、不明、未定着)、未確認種に4分し、影響度(生態系、農林業、人身への被害など)を、大、中、小、不明に4分し、確認状況と影響度の組み合わせから各種を、被害甚大種、被害危惧種、準被害危惧種、要注目種、情報不足種の5カテゴリーに区分した。</p> <p>各種の確認状況は、京都府の市町村別(情報の得られていないところもある)に6カテゴリー(6. 広くあちこちで繁殖している、5. 繁殖している、4. 生息しているが繁殖は不明、3. 生息しているが繁殖していないと考えられる、2. 確認情報はない、1. 本種の情報は無い(いないとも言えない))に分けて記録して、そのデータから確認種(定着、不明(一部区域での定着含む)、未定着)、未確認種に4分した。</p> <p>影響度(生態系、農林業、人身への被害など)は、主に文献・公開情報によって推定した。</p> <p>その結果、鳥類外来種データブックには2007年と同じく確認種8種(コブハクチョウ、アヒル、コジュケイ、クロエリセイタカシギ、ドバト、ソウシチョウ、ベニスズメ、ハッカチョウ)。コリンウズラは確認種(未定着)と変更。未確認種はメジロ(大陸亜種)1種で、計10種を掲載した。このうち外来生物法の特定期間外来生物はソウシチョウの1種であり、その他の生態系被害防止種はクロエリセイタカシギ、コブハクチョウ、コリンウズラ、メジロ(大陸亜種)の4種である。</p> <p>カテゴリー別では、被害甚大種がドバトの1種、被害危惧種がクロエリセイタカシギ、アヒル、ソウシチョウの3種、準被害危惧種がコブハクチョウの1種、要注目種がコリンウズラ、メジロ(大陸亜種)の2種、情報不足種(いずれも影響が不明)がコジュケイ、ベニスズメ、ハッカチョウの3種である。確認状況と影響度の組み合わせで、どのカテゴリーにするかは概ね決めているが、一律には決めていない(この点の検討は、他の分類群の生物も含め今後の課題である)</p>
3. タイプ変更・新規追加種について	<p>コリンウズラは、未確認種となっていたが、1986年頃に確認されているので、確認種(未定着)とあらためた。</p>

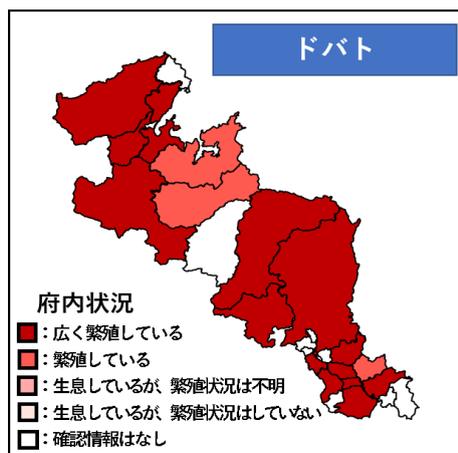
<p>4. 対策</p>	<p>対策はそれぞれの種のタイプによって異なっている。 まだ京都府で確認されていない種は予防的観点から人為的な放鳥を避けることである。そのような行為をすることを規制できる法的枠組みに加え、外来種への意識変革を進めるための普及啓発活動がもっとも重要である。 定着の初期段階にある種は、計画的な管理ができる場合がある。静岡県や山梨県で定着を開始した大型カナダガンを計画的制御に成功した事例(その後の監視は続いている)があり参考とできる(環境省2015)。 広く定着している種は、その影響がかならずしも明瞭になっていない種と、影響がかなり大きいことが明らかに種に別れる。前者は基礎的な研究が必要な種である(京都府における研究が望ましいが他地域の解明があればそれも重要である)。後者はドバトのように根絶は困難だが、給餌規制や営巣地となる建物の管理によって大きく被害の減少ができる場合がある。いずれにせよ、外来種問題を普及啓発し、情報の収集(少なくとも市町村別の情報)、地域の研究を支援する自然系博物館の機能を持つ施設が重要である。</p>
<p>5. 備考</p>	<p>江崎保男・和田岳編(2002)近畿地区鳥類レッドデータブック. 京都大学学術出版会. 環境省(2015(12月8日)) 特定外来生物カナダガンの国内根絶について(お知らせ) https://www.env.go.jp/press/101789.html(閲覧確認2018年8月24日) 京都府(1979)京都の野鳥. 京都府農林部林務課. 京都府(2015)京都府レッドデータブック 京都府自然環境目録2015. 京都府自然環境保全課. 日本野鳥の会京都支部(2016)『Birds of Kyoto 京都府鳥類目録2016』</p>

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ドバト	学名	<i>Columba livia</i>	目科名	ハト目ハト科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	
	カテゴリー (2005)	被害甚大種	タイプ (2005)	Aa	原産地	中近東周辺
	導入・侵入年代	大和・飛鳥時代	導入・侵入原因	伝書バトなどの飼い鳥が野生化		
②分布範囲	全国	全都道府県				
	府内	広く多くの場所で繁殖 (生息数の規模)かなり多い				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input checked="" type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input checked="" type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	ひさしの下、ベランダ、橋梁など、雨の当たらない建築物の中で春から秋にかけて営巣する。					
⑤近似種との見分方	羽色は多様で灰色のものが多い。キジバトは赤茶と黒いうろこ模様の翼で首筋に青い縞模様がある。					
⑥被害状況	府下の都市部を中心に広く繁殖している。糞害(建物などへの害・衛生上の害)や農業被害などがある。					
⑦必要な防除対策	給餌規制や営巣地管理などが必要。					
⑧改訂の理由	—					
⑨参考文献	国立環境研 http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/detail/20050.html					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）					

(執筆者) 須川恒

分布図(2018時点)

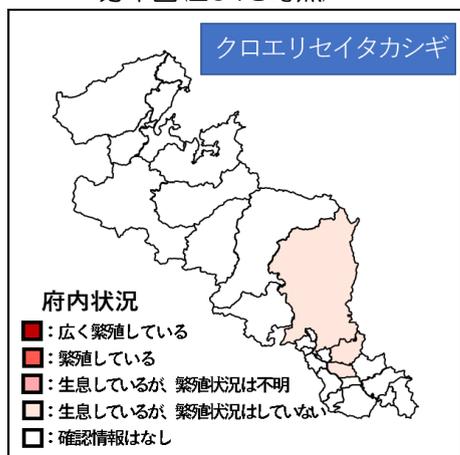


京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	クロエリセイタカシギ	学名	<i>Himantopus himantopus mexicanus</i>	目科名	チドリ目セイタカシギ科
	カテゴリー(2019)	被害危惧種	タイプ(2019)	Ab	国リストカテゴリー	その他の総合対策外来種
	カテゴリー(2005)	被害危惧種	タイプ(2005)	Ab	原産地	アメリカ産亜種
	導入・侵入年代	2000年頃	導入・侵入原因	飼育者が放鳥		
②分布範囲	全国	奈良・大阪・京都				
	府内	府南部で確認例あり (生息数の規模) 過去の観察例のみ				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input checked="" type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	—					
⑤近似種との見分方	セイタカシギより背中部分の黒色となる羽が多い。本亜種をHimantopus mexicanus としセイタカシギと別種とする見解もある。					
⑥被害状況	外来生物法における要注目種。奈良で人為的に放鳥され、府南部で観察例があり、大阪府で繁殖例がある。日本で繁殖する固有亜種と遺伝子攪乱の危険性が高い。					
⑦必要な防除対策	本亜種は動物園等で飼育されている個体数も多いので、逸出が起きないように飼育者は注意すべきである。					
⑧改訂の理由	—					
⑨参考文献	環境省 特定外来生物法解説サイト http://www.env.go.jp/nature/intro/					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）					

(執筆者) 須川恒

分布図(2018時点)

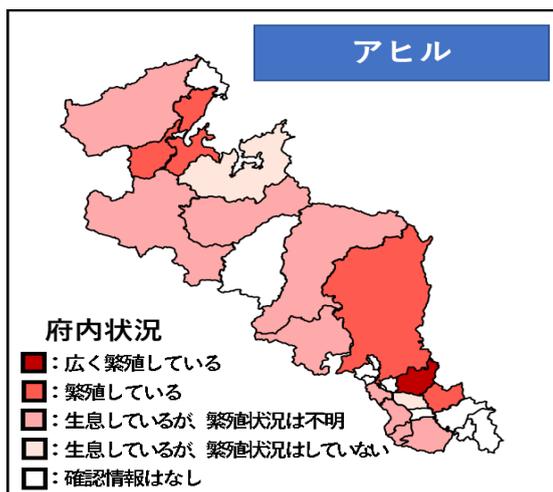


京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	アヒル(ナキアヒル)	学名	<i>Anas platyrhynchos var.domestic</i>	目科名	カモ目カモ科
	カテゴリー(2019)	被害危惧種	タイプ(2019)	Ba	国リストカテゴリー	
	カテゴリー(2005)	被害危惧種	タイプ(2005)	Ba	原産地	
	導入・侵入年代		導入・侵入原因	飼い鳥の野生化		
②分布範囲	全国	全国的に野生化しているものが多いと思われる。				
	府内	京都市・宇治市他に生息（生息数の規模）野生化個体の状況は不明				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] ■生態系被害、■農林水産業被害、□人身・健康被害、□生活被害 [影響内容] □上位捕食者となる、□植生への影響、□競合・駆逐、□遺伝子かく乱、 □在来種への病気・寄生虫の媒介、□土壌・環境攪乱、■希少種・固有種への影響 [性質特性] □定着性が高い、■環境適応性が高い、□繁殖能力が高い、□拡散能力が高い [被害程度] □対策の緊急性が高い、□被害が大きい、□特殊性、■回復困難性					
④生態的特性	アヒルはマガモを原種とする家禽で品種が多い。池などへの遺棄が多い。アイガモはアヒルに原種のマガモを掛け合わせたもので、野外での生活能力が高い。食肉用に飼育されるほか、水田の除草用に飼育される例も多い。					
⑤近似種との見分方	原種のマガモとそっくりのアヒルの品種ナキアヒルも、体形がずんぐりするなどマガモとの区別は可能だが、アイガモの中には区別が困難なものもある。					
⑥被害状況	野外で遺棄されたものや、ペットとして多くの池で給餌を受けて生息しており、繁殖している場所もある。野生のマガモとの交雑、自然分布域の変動や、稲などへの農作物への食害がおこるおそれがある。					
⑦必要な防除対策	野生化したアヒルについての実態把握(遺伝的調査を含む)が必要である。アヒルは飛翔能力が低いいため捕食者に容易に捕食されていると思われるが、アイガモが野生化することを防ぐ必要性は高く、十分管理された状況でのみ飼育されるようにすべきである。					
⑧改訂の理由	—					
⑨参考文献	WWFJ 特定外来生物選定推薦データフォーム http://www.wwf.or.jp/activity/wildlife/lib/invasive2004/index.htm					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）					

(執筆者) 須川恒

分布図(2018時点)

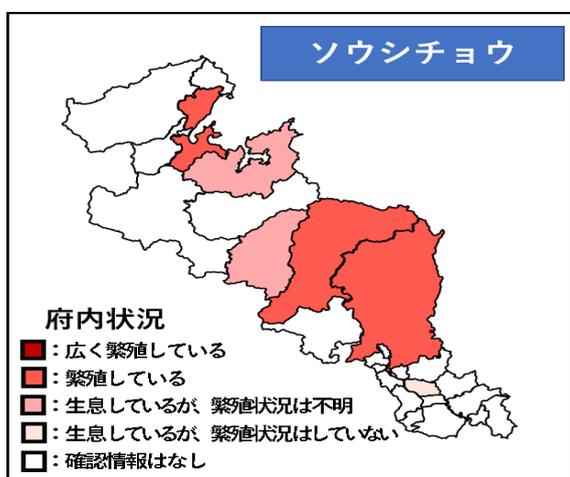


京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ソウシチョウ	学名	<i>Leiothrix lutea</i>	目科名	スズメ目チメドリ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Ba	原産地	
	導入・侵入年代	1980 年頃	導入・侵入原因	飼い鳥の野生化		
②分布範囲	全国	九州・近畿～東海・関東、山形県にも分布記録ございました				
	府内	京都市北部で営巣、京都府中南部・北部で生息確認増加（生息数の規模）一部地域で増加				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input checked="" type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input checked="" type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	京都府での初繁殖確認は2006年(堀本,2007)。季節的に移動して分布拡大にもつながっていると思われる。1m程度のササ類に営巣することが多い。ルーズコロニーで集団的に営巣を開始する。ウグイスがシカの影響を受けにくい濃いやぶを利用するのに対して、ソウシチョウはシカの採食の影響を受けやすい植生を利用する					
⑤近似種との見分方	観察することができれば特徴的なので見分けは容易である。鳴き声は広域的に情報を得ることができるが、鳴き声だけで判別するためには、チメドリ類(ガビチョウなど)やクロツグミなどの在来種の囀りとの区別が難しい。					
⑥被害状況	生態系に関わる被害。本種が優占種になることで、群集構造が著しく変化する可能性があるが、情報は必ずしも多くない。ウグイスへの影響も地域によって異なった報告が続く(Sato(2006)、西教生(2014)など)。ソウシチョウは未利用だった採食資源を利用しているためか採食をめぐる競合は確認されにくい。また、多くのシカ害が深刻な場所でソウシチョウは営巣数を減少させている(ウグイスは影響が少ない)。シカ害によってソウシチョウの影響がカバーされている現状があるといえよう。					
⑦必要な防除対策	定着したソウシチョウの対策は困難である。ソウシチョウも属するチメドリ類はガビチョウなどが各地で分布を拡大しており、チメドリ類への警戒と予防的対策が重要であろう。ペットショップでチメドリ類を扱わないことや野外への放鳥禁止が重要である。					
⑧改訂の理由	—					
⑨参考文献	江口和洋(2002)ソウシチョウ。村上興正他(監)外来種ハンドブックp86。地人書館。 環境省 特定外来生物法解説サイト。堀本尚宏(2007)Strix,25:147 - 150。Sato, S. 2006. Kyushu. Bulletin of FFPRI 5: 243-247.西教生(2014) Bird Research 10, :F27-F32.					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）					

(執筆者) 須川恒・和田岳

分布図(2018時点)

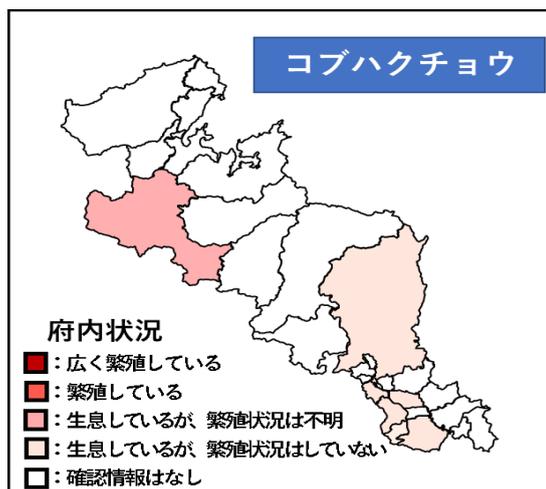


京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	コブハクチョウ	学名	<i>Cygnus olor</i>	目科名	カモ目カモ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Bb	国リスト カテゴリー	その他の総合対策 外来種
	カテゴリー (2005)	準被害危惧種	タイプ (2005)	Bb	原産地	ユーラシア大陸
	導入・侵入年代	1970年代	導入・侵入原因	管理されない飼育鳥が逃げ出し繁殖		
②分布範囲	全国	北海道ほか全国				
	府内	府南部で筆脱け個体が確認されている（生息数の規模）少数				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input checked="" type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	1933年の記録のみで日本産鳥類とされているが、国内の多くで飼育され、野生化した個体が定着しており、北海道で繁殖し茨城県で越冬する渡りも確認されている。					
⑤近似種との見分方	他のハクチョウ類の成鳥は嘴基部に黒いコブはない。本種の幼鳥はコブはないが、嘴基部から目先が黒く、他種の幼鳥と区別できる。					
⑥被害状況	いくつかの池で飼われている。水鳥の定着をさまたげ、農業被害を起こすことがある。ヒシクイ(亜種オオヒシクイ)の定着を妨げた例がある。					
⑦必要な防除対策	飼育管理状況の調査が必要。野生の水鳥が渡来する池などでは飼育をやめるべきである。管理されていない野生化した個体を捕獲すべきである。					
⑧改訂の理由	—					
⑨参考文献	大畑孝二(1987)ウトナイ湖におけるコブハクチョウの生息状況について,Strix6:80-85.東條一史 1996 日本における帰化鳥類の現状と問題点 関西自然保護機構会報 18: 107-114					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）					

(執筆者) 須川恒

分布図(2018時点)



京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	コリンウズラ	学名	<i>Colinus virginianus</i>	目科名	キジ目キジ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Bc	国リスト カテゴリー	その他の総合対策 外来種
	カテゴリー (2005)	要注目種	タイプ (2005)	Bd	原産地	北米
	導入・侵入年代	1980年頃	導入・侵入原因	猟犬訓練用として放鳥		
②分布範囲	全国	神奈川県・大阪府などで生息確認				
	府内	1986年頃城陽市木津川河川敷で確認記録がある。（生息数の規模）過去に一例のみ。				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input checked="" type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	農地、草原、森林を利用し、雑穀類や草の種子、ドングリ類を多く食べるが、繁殖期には昆虫類も多く食べる					
⑤近似種との見分方	全長22～27cm。額、嘴基部、眼下部は黒色で、喉、眉斑は白色。背、胸、腹は赤褐色で、羽縁は黒色あるいは白色。 メキシコからカナダまでに広く分布し、約20ほどの亜種に区分されている。					
⑥被害状況	外来生物法における要注目種。日本でも一部の地域で定着しているが、生態系への具体的影響については不明な点が多い。アメリカでは狩猟対象として非常に人気種であり、狩猟犬の訓練用に放鳥されたものが野生化したとされる。					
⑦必要な防除対策	狩猟訓練用放鳥の規制が必要。狩猟訓練用など野外での利用目的に輸入すべきでなく、逸出すれば再捕獲も困難であるので、新たな飼育は慎重に対応すべきである。					
⑧改訂の理由	要注目種であることに変化はない。1986年に府下で記録されているので未確認種を確認種(未定着)と変更して、タイプはBdからBcへ変更した。					
⑨参考文献	環境省 特定外来生物法解説サイト http://www.env.go.jp/nature/intro/ 国環研 http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/detail/20040.html					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）					

（執筆者） 須川恒



(C)浜松市立動物園

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	メジロ(大陸亜種)	学名	<i>Zosteropus japonica subsp.</i>	目科名	スズメ目メジロ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Bd	国リスト カテゴリー	その他の定着予防 外来種
	カテゴリー (2005)	要注目種	タイプ (2005)	Bd	原産地	中国、フィリピンなど
	導入・侵入年代		導入・侵入原因			
②分布範囲	全国	野外で繁殖した事例は確認されていないが、野外に逸出している可能性は強い				
	府内	未確認 (生息数の規模)				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input checked="" type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input checked="" type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	愛玩目的（鳴き合わせなど）で多数が輸入され、大量に流通、飼育されている可能性がある。ヒメメジロなどを輸入して、その飼育許可証を悪用して、密猟された国内種と入れ替えて飼育・販売するなどの行為が報告されている。					
⑤近似種との見分方	ヒメメジロ(<i>Zosterops japonicus simplex</i>)に、ハイナンメジロ (<i>Z. j. hainanus</i>)、ククチメジロ (<i>Z. j. batansis</i>)、フィリピンメジロ (<i>Z. j. meyeri</i>) などを含み、日本原産種と非常に類似するが、羽色、くちばしなどの特徴により識別は可能(写真 左：亜種ヒメメジロ、右：亜種メジロ)。					
⑥被害状況	外来生物法における要注目種。メジロ密猟にからむ輸入・放鳥行為が在来種に与える影響への警戒が必要。在来亜種種への影響は調査が必要。					
⑦必要な防除対策	観賞用として一部で利用されているが、国内産のメジロを外国産と偽って飼育するのは鳥獣保護法の違反行為である。背景にあるメジロ密猟の根絶が必要である。					
⑧改訂の理由	—					
⑨参考文献	村上興正他(監)外来種ハンドブックp86. 地人書館. 環境省 特定外来生物法解説サイト http://www.env.go.jp/nature/intro/					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）					

(執筆者) 須川恒

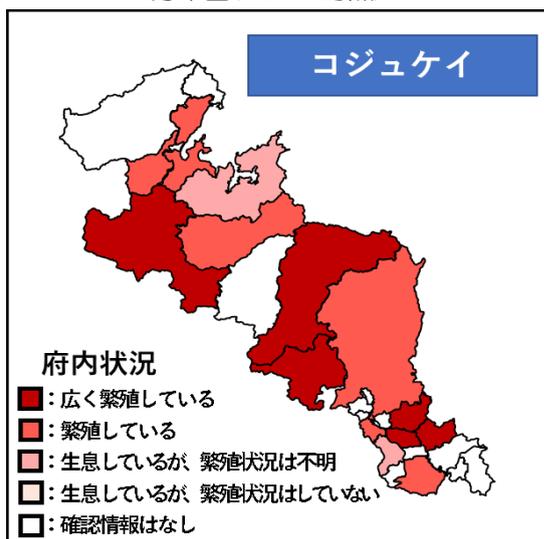


京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	コジュケイ	学名	<i>Bambusicola thoracica</i>	目科名	キジ目キジ科
	カテゴリー (2019)	情報不足種	タイプ (2019)	Da	国リスト カテゴリー	
	カテゴリー (2005)	情報不足種	タイプ (2005)	Da	原産地	
	導入・侵入年代	1919年	導入・侵入原因	東京都と神奈川県で放鳥されたものが自然繁殖。		
②分布範囲	全国	本州・佐渡・四国・九州・伊豆諸島・硫黄列島で繁殖				
	府内	府内全域に生息していると思われる（生息数の規模）地域によっては普通に生息				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input checked="" type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	低木林や農耕地に生息する。					
⑤近似種との見分方	ウズラは一回り小さく、キジやヤマドリは一回り大きい。コジュケイは頭部や腹部の青灰色部が特徴的。					
⑥被害状況	2000年の日本鳥学会目録より外来鳥とし扱われるようになった。影響や被害があるかは不明。府下の山林に広く分布しているが、地域によって近年個体数が減少しているという情報もある。					
⑦必要な防除対策	狩猟対象種ではあるが放鳥は避けるべきである。					
⑧改訂の理由	—					
⑨参考文献	国立環境研究所 http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/detail/20020.html					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）					

（執筆者） 須川恒

分布図(2018時点)



京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ベニスズメ	学名	<i>Amandava amandava</i>	目科名	スズメ目カエデ チョウ科
	カテゴリー (2019)	情報不足種	タイプ (2019)	Da	国リスト カテゴリー	
	カテゴリー (2005)	情報不足種	タイプ (2005)	Da	原産地	
	導入・侵入年代	1960年代	導入・侵入原因	飼い鳥の野生化		
②分布範囲	全国	近畿・東海・関東の一部・新潟、九州・東北にも分布記録ございました				
	府内	京都府南部 (生息数の規模) 少数				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input checked="" type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	草原、ヨシ原、河川敷に生息。少数の群れで移動することが多い。					
⑤近似種との見分方	全長10cmで、雌雄の羽彩は異なる。雄は全体が深紅色で、翼、胸、腹の両脇に白点が並ぶ。雌は頭から翼にかけて暗褐色、胸、腹は黄色。翼に2列の白点が並ぶが体側にはない。					
⑥被害状況	1970年代より府南部のヨシ原で営巣する。ヨシ原には1970年代にキンパラ類など多くが生息していたが、ベニスズメのみが生息・繁殖を継続しているものと思われ注目される。影響の内容は不明だが、少数なので大きな影響はないと思われる。					
⑦必要な防除対策	影響は不明だが継続して生息・営巣していると思われるので監視が必要である。ヨシ原および周辺で生息する外来鳥類も含めた実態把握を継続しておく必要がある。					
⑧改訂の理由	—					
⑨参考文献	江崎保男・和田岳 2002 近畿地区・鳥類レッドデータブック 京都大学出版会 国立環境研究所 http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/detail/20370.html					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）					

(執筆者) 須川恒

分布図(2018時点)



京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ハッカチョウ	学名	<i>Acridotheres cristatellus</i>	目科名	スズメ目ムクドリ科
	カテゴリー (2019)	情報不足種	タイプ (2019)	Db	国リスト カテゴリー	
	カテゴリー (2005)	情報不足種	タイプ (2005)	Db	原産地	中国中南部他
	導入・侵入年代	1970年代	導入・侵入原因	飼い鳥が逃げ出し野生化したと思われる		
②分布範囲	全国	東京、神奈川、大阪、兵庫他				
	府内	京都市内の一部で営巣 (生息数の規模) 少ない				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input checked="" type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	地上で採食する。原産地では岩、木、人工物にできた穴の中で営巣する。群で行動することが多く、非繁殖期は集団ねぐらをとる。					
⑤近似種との見分方	ムクドリより大きく翼に白斑があり、下尾筒の羽縁と尾羽の先端が白く、額の羽毛が直立して冠羽になるなどで区別できる。					
⑥被害状況	九州南部のものは自然移入の可能性もある。本州各地で飼い鳥が野生化したと思われる営巣情報が続き監視が必要。生態系などへの影響は不明。近縁種とのムクドリへの影響などがあるかもしれないが情報は無い。					
⑦必要な防除対策	京都市内で1970年代に営巣情報があり、その後も営巣情報が続いているため、今後の監視が必要である。					
⑧改訂の理由	—					
⑨参考文献	江崎保男・和田岳 2002 近畿地区・鳥類レッドデータブック 京都大学出版会 国立環境研究所 http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/detail/20370.html					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）					

(執筆者) 須川恒

分布図(2018時点)

